日本SPF豚協会だより
Report of JAPAN SPF Swine Association 2003.10 第13号

提◆言

ＳＰＦとは何だろう―積極的な情報発信を―

日本ＳＰＦ豚研究会会長
独立行政法人 農業技術研究機構 動物衛生研究所長　清水　実嗣

今ほど食の安全と安心に関心が高まったことはありません。本年５月には食品安全基本法が成立し、家畜伝染病予防法や薬事法など関連法律が改正されました。さらに、７月には内閣府直轄の食品安全委員会の新設、農林水産省に消費・安全局、衛生管理課を設置するなど、関連行政組織の改革が実施されました。これからの食料生産は今まで以上に消費者に軸足を置いた枠組みの中で行われ、安全と安心の確保が最重要課題となります。

ところで、安全は科学的根拠に基づいた客観的事実、安心は個人の主観的な感じ方と、両者は区別して考える必要があります。安全が安心の前提になることは当然ですが、安全が安心に直結するとは限らないなど、安全と安心には難しい問題が多々あります。畜産物でいえば、腸管出血性大腸菌O157やサルモネラは人の危害要因となりますから、その排除は安全かつ安心な畜産物の生産に不可欠となります。一方、家畜の生産を阻害する疾病の中には、人には無害な疾病もたくさんあります。しかし、人に危害を及ぼさないことが明らかな場合であっても、消費者がそのような疾病に罹患した動物を食用とすることに安心感を持つことは決してないでしょう。当然のことですが、畜産物の安全と安心を確保するためには、病気のない健康な家畜を生産することに尽きると思います。

ＳＰＦ豚の生産技術は微生物のコントロールによる生産性の向上を目的としたシステムですから、まさに健康な家畜生産に適した生産体系ということができます。特にこれからは薬剤の使用規制が今まで以上に厳しくなることが想定され、ＳＰＦ豚の生産技術はそのような状況に対応しうる最良のシステムと思います。

一方、ＳＰＦ豚には軟らかい、臭みがないなどの特長があり、最近はスーパー等でもＳＰＦ豚の表示をしばしば見かけるようになりました。しかし、中には「ＳＰＦ豚もどき」もあり、消費者が戸惑うこともしばしばあるやに聞いています。

不当表示は排除しなければなりませんが、そのような状況を許容している理由の一つとして、ＳＰＦ豚の意味が消費者に思いのほか知られていないことを指摘することができます。ちなみに「ＳＰＦ豚とは何か」と愚妻に問うと、「バイキンのいないムキンのブタでしょう」などと頓珍漢な答えが返ってきます。ＳＰＦ豚を信頼されるブランドとして確立するためには、ＳＰＦ豚とその生産システム、認定制度の内容と仕組み等を消費者によく知ってもらわなければなりません。

そのためには、生産者サイドからＳＰＦ豚について正確な情報を積極的に発信することが大切であり、生産者の責務でもあります。また、ＳＰＦ豚は生産性の向上を目的に開発されましたが、安全に関わる危害要因の防除にも有効なシステムであり、より安全かつ安心な豚肉生産を可能とする大きな能力を秘めています。したがって、ＳＰＦ豚の対象微生物や基準を積極的に見直し、それらを消費者に伝える、ＳＰＦ豚の発展にはそのような不断の努力が重要となります。

８月７日に開催された「国産豚肉消費拡大シンポジウム」において、主婦連合会の和田正江さんは「今まで情報が少なく、養豚の生産現場を知ることがなかった。消費者は生産者の主張が食の安全を保障するものであることに気づかねばならない」と述べ、「生産者と消費者の本音の交流」の重要性を指摘しました（ピッグエクスプレス、Vol.289）。

生産者サイドから積極的に情報を発信し、消費者から信頼される養豚を確立するとともに、これからの養豚はＳＰＦ豚でなければならないという状況を創り出すことを期待しています。このことが輸入豚肉との競合に打ち勝ち、わが国の養豚を発展させる最良の途と確信しています。

国産ＳＰＦポークセミナーのご案内

11月13日（木）愛媛・松山で開催されます
ぜひご参加下さい！

ＢＳＥ発症牛の生産履歴に関する追跡調査の必要から検討が進められてきた牛肉のトレーサビリティシステムがいよいよスタートしましたが、つぎに豚肉のトレーサビリティについて検討が始まりました。牛では１頭ごとについての生産情報追跡になりますが、豚の場合、同じ環境で同じえさを食べている豚を個体識別することの意味はほとんどないように思われます。また、生産情報の公開と豚肉の安全性の提供に関するセミナーや検討会などが頻繁に行われていますが、食の安全を求める消費者と生産者を中心にしたものが多く、その中間を占める食肉処理、流通の関係者を含めたものが少ないように思われます。生産情報を正確に消費者に伝えるためには、農場から出荷された豚がと殺され、枝肉となり、カット処理された後、スライスされて店頭に並ぶまでの情報伝達の道筋がしっかりしていなければならないのは当然のことです。

一方、農水省では食の安全確保策の一環として、日本農林規格（ＪＡＳ）を制定していますが、現在３種類のＪＡＳがあります。従来から実施されている食品の成分などを保証するＪＡＳ、地鶏や黒豚など生産分野での特徴を保証する特定ＪＡＳ、有機農産物であることを保証する有機ＪＡＳです。そして目下、４番目のＪＡＳが検討されています。それは「生産情報公表ＪＡＳ」とよばれるものです。この情報が生産された豚肉の流れに乗って消費者に正しく届くようになればトレーサビリティシステムの完成です。

今年の「国産ＳＰＦポークセミナー」では以上のことがらを念頭におき、ＳＰＦポークのトレーサビリティに関し、生産から消費までの各段階において、「何ができて何ができないか」、「できないとすればどこに問題があるのか」、「できるようにするためにはどうすればよいのか」などについて考えてみたいと思います。

第一部ではまず、昨年来検討を重ね、改正されたＳＰＦ豚農場認定基準とその運用と消費者のメリットについて、柏崎　守・協会認定委員会委員長から、生産者はもとより食肉関連業界および一般消費者にもわかりやすく解説してもらいます。

つぎに、豚肉も当然その中に含まれる食品全般のトレーサビリティについて、長峰徹昭・農林水産省消費・安全局消費・安全政策課課長補佐に基調講演をお願いしています。ここでは政策当局で考えられている食品のトレーサビリティの内容とあり方について学び、生産現場（農場、と畜場、食肉処理場、小売店）から発信される生産情報をどのような仕組みで消費者に伝えるかをみんなで考えたいと思います。

第二部はシンポジウムです。はじめは、生産行程の管理とその記録について、㈲レクスト（協会認定農場、宮崎県）の長友俊二社長にお話をいただきます。生産情報を正しく正確に消費者に伝えるための記録のとりかた、飼養している豚のロット識別、出荷時のロット標識などの工夫、あるいは現状では無理でも、こうすればできるようになるといった、出荷豚に生産情報をリンクさせる工夫などについてもふれてもらう予定です。

つぎに荷受けから、と殺、カット工場処理をへて出荷に至るまでの生産行程管理とその記録について、ジャパンミート㈱（ミートパッカー、宮崎県）の谷山弘明社長にトレーサビリティ実践の立場から解説してもらいます。現行の食肉処理工程の流れ、トレーサビリティの整合性を確保する工夫などについてもお話しいただきます。

三番目は食肉処理工場から届いたカット肉を商品センターでスライス、パック詰めして店頭に陳列・販売し消費者の手に届けるまでのトレーサビリティについて、一号舘㈱（中堅スーパー、三重県）の石田　實商品部課長に説明していただきます。また、豚肉の安全・安心について消費者がどのような情報を求めているか

についてもふれてもらいます。

最後に、このような流通経路を流れる商品とその生産情報が正確に一致していることを確認し、そのうえで、消費者が協会ホームページを使って生産農場まで遡ることのできるモデル（現在構築中のＳＰＦ豚に関するトレーサビリティシステム）を、林　哲・協会理事（伊藤忠飼料研究所長代行）がコンピュータ画面を使いながら解説します。

セミナー終了後は恒例のレセプション（懇親会）を開催します。協会認定農場産ＳＰＦポークをふんだんに使った料理と飲物でご歓談下さい。

大勢の皆さまのご参加、お待ちしております。

「国産ＳＰＦポークセミナー」－トレーサビリティへの挑戦－

大会委員長　山下喜多雄
（愛媛県農業協同組合連合会代表理事副会長）

実行委員長　藤田　世秀（㈱ユキザワ代表取締役）

開催日　平成15年11月13日（木）13：00～20：00

開催場所　リジェール松山クリスタルホール
（セミナー、レセプションとも、地図参照））

プログラム（敬称略）

大会委員長あいさつ　13：00～13：05
会長あいさつ　13：05～13：10

第一部　講　演　座長：藤田　世秀

1.ＳＰＦ豚農場認定基準とその運用　13:10～14:00
柏崎　守（協会認定委員会委員長）

2.食品のトレーサビリティについて－基調講演－
長峰　徹昭　14：00～14：45
（農林水産省消費･安全局消費･安全政策課課長補佐）

第二部　シンポジウム　15：00～17：30
座長：秦　政弘（協会理事）

1.ＳＰＦ豚認定農場における生産行程管理
長友　俊二（㈲レクスト社長）

2．食肉処理部門の生産行程管理
谷山　弘明（ジャパンミート㈱社長）

3．食肉販売店の対応
石田　實（一号舘㈱商品部課長）

4．協会ホームページとトレーサビリティ
林　哲（協会理事）

総合討論

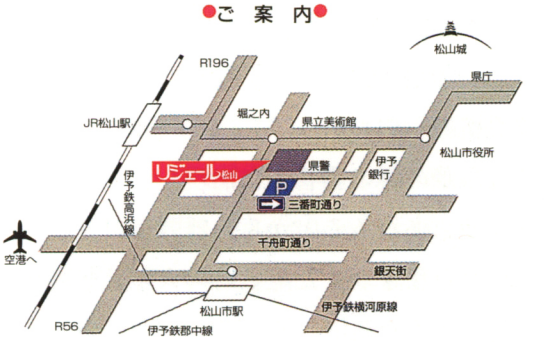
レセプション　18：00～20：00

会費：セミナー 3,000円　懇親会 3,000円
当日、会場で受付の際に申し受けます。

参加ご希望の方は同封の参加申込書により、**10月31日**までに郵送もしくはＦＡＸでお申し込み下さい。定員は200名です。定員になり次第締切らせていただきますので、お早めにお申し込みください。

お申込み・お問い合わせ先
日本ＳＰＦ豚協会
〒101-0047 東京都千代田区内神田1-2-6
産広美工ビル7Ｆ
TEL 03-5283-5021
FAX 03-5283-5022

●ご　案　内●



●交通のご案内

●JR 松山駅より
タクシー……5分
市内電車（南堀端下車）…10分

●松山観光港より
タクシー……30分
バス（南堀端下車）……40分
電車（高浜→市駅下車）…35分

●伊予鉄松山市駅より徒歩……5分

●三津浜港より
タクシー……20分
バス（南堀端下車）……30分
電車（三津→市駅下車）…25分

●松山空港より
タクシー……20分
バス（市駅下車）……35分

リジェール松山〈JA愛媛 8F〉
松山市南堀端 2-3　TEL089-948-5630
（立体駐車場３番町通り JA 愛媛南隣）

浮腫病

全農家畜衛生研究所 岡田 宗典

気温が下がるにつれて呼吸器病や下痢症などいろいろな疾病が発生しやすくなります。ここ数年、全国的に発生が増加しているのが浮腫病です。この疾病は冬場だけでなく、一日の温度差が大きくなる時期やストレスの多い環境でも発症します。今回は、この浮腫病について紹介します。

浮腫病は、ベロ毒素の一種であるＶＴ２ｖｐ１を産生する大腸菌（血清型O139、O141）により引き起こされる豚の疾病です。本病は離乳期とくに約35～60日齢の子豚で発生が認められることが多く、発生農場では子豚の10～40％が発病し、死亡率は非常に高くなることがあります。発生農場では短期間（４～15日間）で終息することもありますが、最近は再発を繰り返すことが多いようです。

離乳豚に発生が集中する原因としては、原因菌の保有する線毛抗原（F18ab）に対する受容体（レセプター）が３週齢以降の豚の腸管内に出現し、この時期がちょうど離乳期にあたることから、離乳豚に発生しやすいものと思われます。また離乳時の人工乳への切り換えによる腸内菌叢の変化や移行抗体の低下、群の編成替え等によるストレスが浮腫病の誘引になるものと考えられています。

浮腫病の原因菌には２種類あることが知られており、その原因菌の違いにより臨床症状が異なります。原因菌がＶＴ２ｖｐ１のみ産生する場合、食欲不振、元気消失に始まり、開口呼吸、後躯麻痺、犬座姿勢、遊泳運動等の中枢神経障害を示します。浮腫は眼瞼周囲、耳翼皮下などに顕著に出現し、発症後急性の経過で死亡します。

通常、大腸菌による感染症では下痢を起こすと思いがちですが、本原因菌による浮腫病の場合、下痢はほとんど起きません。ここ数年流行しているのがこの原因菌による浮腫病です。

一方、原因菌がＶＴ２ｖｐ１とエンテロトキシン（下痢毒）を産生する場合、下痢を起こしますが、浮腫の程度は顕著でなく、外見上、浮腫を認めず神経症状のみを呈することもあります。

この原因菌による浮腫病が以前は多かったのですが、最近は少ないようです。

本病の治療法や予防法について種々検討されていますが安定した効果が得られる方法はまだ確立されていません。発生誘因として飼料や環境の急変が指摘されているのでこれらの要因に注意を払うことが必要です。

日常の衛生管理の他に、哺乳時から新鮮な水と人工乳を与えて人工乳を十分食べられるように慣らしておき、離乳時には急激な食い込みをさせない、離乳子豚舎は哺乳時よりもやや高めに保温するなど離乳時のストレスを緩和することが重要です。

さらに、乳酸菌など生菌剤やオリゴ糖を投与することによって腸内細菌叢を安定させることが有効です。

また、原因菌に効く抗菌剤を投与して発症豚の治療を行うとともに未発症の同居豚の発症を防ぐことも重要です。

しかしながら、感受性のある抗菌剤を投与したにもかかわらず症状が悪化したとの報告があることから、獣医師の指示に従い、慎重に行わなければなりません。ワクチンなどが実用化されていない現状においては、浮腫病に限らずどの病気についても言えることですが、豚舎消毒を中心とした徹底的な衛生対策を行い、豚舎を清浄にすることによって豚への再感染を防ぐことが最も重要な対策となります。

肥育前期の豚

伊藤忠飼料㈱研究所　宮井　宏泰

肥育期

はじめに肥育期のデータを少々。肥育期は70～190日齢、体重で30～115kgの豚のステージを指します。日齢、体重とも多少は前後しますが、130日齢、70kgを境に肥育前期「子豚期」と肥育後期「肉豚期」に分けることが多いようです。今回はこの肥育前期、通称「子豚期」の豚について話を進めたいと思います。

餌

まずは餌です。この時期の豚の食欲は半端な量ではなくなります。今回の子豚期を含む肥育期で１頭が食べる餌の総量は、270kgを超えます。これは豚が出荷までに食べる量のおよそ85％に相当することからもすごさがうかがえます。

また、成長とともに悪くなる飼料要求率も子豚期に2.9前後となりますが、エネルギーのとり過ぎは無駄な脂肪蓄積の原因ともなるために、豚の食欲を満たし、脂肪蓄積の少ない餌にしているからです。

成長すると暑さに弱い

子豚期になると、「寒さ」にはかなり適応できるようになります。かつて好成績農場で、白い息を吐く豚が元気に遊んでいる光景を見たことがありますが、このことからも「寒さ」への適応がうかがえます。

一方、豚は汗腺が発達していないうえに、成長につれて脂肪が厚くなってくるため、「暑さ」に対する抵抗力は弱くなっていきます。そのため暑いときに糞や尿を体に塗る行動で体温を下げ、その結果、糞まみれの状態の、悪い豚が出来上がります。このような場合、環境温度を下げることが最良ですが、なかなか難しいものです。

子豚期の豚は、じっとしていても約170Wの熱を出し続けています。これは、裸電球を３個つけている状態と同じです。動いているときは当然もっと熱を出しているわけです。こんな熱源が何頭もそろっているわけですから環境温度を下げるのは至難の業ですが、せめて密飼いを避けることが肝要となります。

給水量も大切

給水についていえば、ニップルで給水する場合、同じ豚舎でも勢いよく出るものもあれば、ちょろちょろとしか出ないところもありさまざまです。ちょろちょろしか出ないニップルは当然成長上の問題がありますが、環境温度が25℃を超えると、勢いよくでるニップルがある豚房では、水遊びが行われます。これは、糞や尿をこすりつける行動と同様です。

場合によっては、遊びで消費される水が１日で80リットルを超えることもあり、排泄物処理への負荷が懸念されます。そのため、明らかに豚が飲む以上の勢いで水の出るニップルは調節する必要があります。

通常の高さにある一般的なニップルの場合、指でニップル内の中棒を押し、水が50cm以上飛べば、明らかに過剰な給水です。ニップルごとに調節が必要となります。

子豚期

子豚期になると豚本来の行動も顕著となり、あっと驚くようなこともしてみせたりもします。

たとえば、個体ごとに名前を付け１ヶ月程度呼びつづけると、返事をする豚が出てきます。このときは４頭を個別で飼育していたのですが、１頭だけ返事をするようになりました。

また、人が間近に来ると横臥、パンティングをし、遠くから見るとやめている豚もいます。暑さをアピールしているように見えます。こうしたことが通俗的に「豚は賢い」といわれる所以でしょうか？

ユキザワと共に

株式会社 ユキザワ　**能勢えり子**

ユキザワに入社して早、18年が過ぎました。

当社はＳＰＦ豚ひとすじに、最初は種豚を販売する会社の１農場としてスタートし、その後、親会社の直営農場を経て平成元年、株式会社ユキザワとしてここ秋田県大館市に設立されました。母豚400頭規模から800頭一貫経営となり、平成13年３月には、福島１農場と愛媛２農場と統合され、実に３倍強の規模となりました。

この間、平成７、８年頃の高相場、加えて平成13年のＢＳＥ問題など、養豚界にとっては数回神風が吹きましたが、ほとんどが入社するまで豚を見たことがなかった飼育担当社員のこれまでの努力を忘れることができません。

会社設立当時は、それまでたびたび社名が変るので銀行からは不審に思われており、生産成績も思わしくなかったので、このまま事業を存続するか否かの会議が毎月のように開かれていました。

また、ここは盆地なので１年の寒暖の差が大きく、入社当時は夏の暑さを扇風機でしのぎ、寒い冬は小さなストーブ一つで防寒着を重ね着して仕事をしていました。私の強靭な体力（体格？）の源はここにあります！

気がつけば私もいつしか２人の子持ち。保育園に通い始めた頃私の車の後を追って泣いた長男は今、私を見下ろし、父親よりもデカイ足を持つ中学2年。何かと要領のよい次男は、小学４年生になりました。

ところで、もし私が豚ならば「とっくに淘汰済み」だそうです！。「高齢出産、子数少、泌乳欠陥、子育てヘタ等々…」（以上は農場長談）。

こんな私ですが、これからも会社と共に成長できるよう頑張りますので、社内外の皆さま、どうぞよろしくお願いします。

豚との出会いで過ごした大切な日々と今と

株式会社マルス農場　**松本　亜弓**

ぽっこり飛び出た私のお腹の中には、小さな命が入っています。モゾモゾ、グニュグニュという動きに、私はいつも驚いたりホッとしたりしています。

以前、寝ている母豚のお腹がポコッポコッと動いているのを「今、どんな気持ちなのかな？」と思いながら見ていたけれど、その気持ちも今ではよくわかるようになりました。お腹をつき出してのしのし歩く姿はもう立派な妊婦（マタニティー）の私です。

自分が母親になるとわかってから、不思議と豚の啼き声がお母さんのささやく声や子どものはしゃぐ声に聞こえてきて、子豚を見ては「我が子もこのくらいになったのかな？」なんて抱き上げてみたりして、「自分のことも豚だと思ってない？」と回りの人にいわれてしまいました。

今は仕事はお休み中で豚とは縁のない生活に戻っていますが、農業にさえとくに関心のなかった私と豚の出会いから、いろんな人との出会いと数々の貴重な経験を重ねることができたこの数年間は、私にとって大切な日々です。我が子にもそんな出会いをしてほしいと心から願っています。

「男かな、女かな、名前も考えないとな」とつぶやく夫と、この世に生まれてくる日をドキドキしながら待っている私の今も、我が子が与えてくれた大切な日々としてずっと大切にしていきたい、と思いながら、私のマタニティーライフもまだまだ続きます。

●協会からのお知らせ●

●ポークセミナーにぜひご参加下さい

今年の協会主催の「国産ＳＰＦポークセミナー」は11月13日（木）愛媛・松山で開催されます（２～３Ｐ参照）。四国というとやや遠いイメージもおありでしょうが、協会の新しい認定制度の説明や、いま注目のトレーサビリティーへの協会独自の取り組み紹介など内容も盛りだくさんです。せっかくの機会ですので一人でも多くの会員の皆さんのご参加をお待ちしております。

●ＪＡＳ勉強会を来春にも開催予定

セミナーの案内でも触れましたが（２Ｐ参照）現在第４のＪＡＳとして「生産情報公表ＪＡＳ」が検討されています。しかし、このことについての理解はまだ十分ではなく、今後生産現場での対応にとまどうことが多くなると考えられます。そこで協会では問題を整理し生産情報（特定ＪＡＳの条件も含めて）の記録のとり方やトレーサビリティーへの対応について、政策担当者を招き、より具体的な勉強会を開催してはと考えております。ＳＰＦ豚農場認定制度と生産情報公表ＪＡＳは一致する点が多く、ＳＰＦ養豚発展にはずみをつけることも期待できます。開催は新年早々を考えております。詳細が決まり次第ご案内いたしますので興味のある方はぜひご参加下さい。

●協会ホームページの開設を準備中

かねてより「協会のホームページを一日も早く立ち上げてほしい」との声が寄せられておりましたが、いよいよ開設に向け準備にとりかかりました。独立行政法人動物衛生研究所のホームページ作成を手がけられた井上忠恕・(社)農林水産技術情報協会技術主幹にご協力いただき、会員の皆さんはもちろん、広く一般の方にもアクセスしてもらえる充実したものにしたいと努力しています。来年早々のスタートを目指しておりますが、会員の皆さんのアイディアもぜひ盛り込みたいと思いますので、事務局までご意見をお寄せください。

●『だより』のご意見、感想をお聞かせ下さい

編集部では「会員／読者のページ」を設け、会員の皆さんの声を反映した誌面づくりをめざしています。『協会だより』の感想、意見はもちろん、協会への要望、疑問・質問、エッセイ等々、ぜひお寄せください。方法は郵送、FAX、Ｅメール等、何でも結構です。お待ちしております。

〒101-0047 東京都千代田区内神田1-2-6
産広美工ビル7F
日本ＳＰＦ豚協会事務局
FAX.03-5283-5022　TEL.03-5283-5021
e-mail：j.spf.a@nifty.com

●認定情報●

●平成15年度認定農場

[9月認定](有効期間：平成15年9月11日から16年9月末日まで)

北海道・ホクレン滝川スワインステーション、㈲山中畜産、ササキＳＰＦファーム、寒河江農場、浅野農場、**青森県**・カワケンＳＰＦファーム、**岩手県**・全農東日本原種豚農場、㈲ケイアイファウム北上農場、**秋田県**・全農秋田県本部ＳＰＦ種豚センター、(資) 深沢スワインファーム、**宮城県**・㈱シムコ岩出山事業所、**福島県**・㈱シムコ浪江事業所第二農場、㈱シムコ浪江事業所第一農場（肥育）、**茨城県**・常陽発酵農法牧場㈱、東京養豚農業協同組合岩井牧場、小沼養豚場、㈲米川養豚場、**栃木県**・サンエス大渡農場、㈲Ｋ＆Ｔコーポレーション、**群馬県**・㈲小黒養豚、㈲ほそや、㈲畑中畜産、**長野県**・長野県農協直販㈱ＳＰＦ種豚センター、㈲岩垂原エスピーエフ農場、㈲ＳＰＦ創成自農舎タローファーム、(農) エスピーエフこがねや第一農場、㈲クリーンポーク豊丘、**千葉県**・㈲東海ファーム、**埼玉県**・㈲松村牧場、**神奈川県**・㈲横山養豚、**静岡県**・㈱マルス農場、**愛媛県**・県農えひめ広見種豚増殖センター、**香川県**・㈱七星食品多和ファーム、**徳島県**・日の出畜産（農）、**長崎県**・第三セクター職業訓練法人長崎能力開発センター、**熊本県**・㈲高森農場、㈲ニッポンフィード牧場正清農場、**宮崎県**・㈱九州ノーサンファームえびの種豚場、(農)守山畜産、**鹿児島県**・㈱シムコ鶴田事業所、㈱九州ノーサンファーム大口農場　(以上42農場)

※次回認定委員会は平成15年12月4日（木）の予定

SPFのひと

㈲ニッポンフィード牧場
竹山農場
竹山　勝夫さん
●鹿児島県大口市

夫婦二人三脚で穏やかな中にも情熱を秘めて取り組む日々

鹿児島県北端に位置する大口市には「曽木の滝」という観光スポットがあります。緩やかに流れる川内(せんだい)川の途中に意外な出現のしかたをすることもあり、訪れた人にちょっとした驚きと水しぶきを浴びせる滝の名所です。ＳＰＦ認定農場・竹山農場は、その曽木の滝から１キロ程のところにあり、豊かな水の恵みを受けながら、ニッポンフィード㈱の第一号契約繁殖農場として肉豚子豚を受託生産しています。

農場主である竹山勝夫さん（59歳）は大口市について「九州の中でも最も気温の低くなる地域のひとつで、気温差にも大変気を使う」と語ります。竹山さんは今、細霧器の利用により、気温に対応する湿度を調整することで快適環境を作れないかを試みてます。農場を訪れた日は残暑厳しく温度計は33℃に達していましたが、整然と等間隔で寝そべる子豚たちを指さしながら、「良い状態。この状態を常に目指してる」と一言。「数字やマニュアルよりも、自分で見て感じたことの方を優先する」のが竹山さんの信念なのです。

「特別な管理は何も…」と控えめな竹山さんですが、哺乳育成率98％を超える成績は簡単に実現できる数字ではありません。贅沢に水を使った屋根への散水はもう20年も前から。畜試で初めて見たストールを当時この地区でいち早く導入したのも竹山さんとのこと。石灰塗布、土壌菌、給水口の追加…。良いと直感したものへの取り組みは迅速で積極的、しかも確実に継続されています。

現在は、母豚230頭まで飼養できる設備に170頭前後でユッタリと飼っていますが、今年の竹山さんは地区の公民会長の役回りもあり超多忙な一年となりそうです。そんな中で助かるのが、奥さんのツユ子さんとの30年以上もの二人三脚に３年前から次女の美枝さんがお手伝いに加わったことです。「朝早くから農場に入ってくれる」と、竹山さんは頼もしげに目を細めます。一方、「タバコをやるつもりでお嫁に来たら豚だった。騙された」と大らかに笑うツユ子さんですが、ご主人に鍛えられ、今ではご主人を上回る几帳面さで管理に手をかけているようです。すぐ近くの自宅で先に晩酌を始めてしまった竹山さんが、遅くまで農場に残る奥さんに気をもむ日もしばしばとか。「(奥さんの頑張りは) 大きいですよ」と、感謝の気持ちを(なぜか小声で) 打ち明けてくれました。

気温の話題が出た時です。突然「もっとも、この気温差があるから旨い米が穫れる訳だし」と話題は別の方へ。「寿司米と言えば大口の伊佐米、やっぱり伊佐米が一番旨いと思うんだけどねえ」と言葉に力が入りました。稲作も少し手掛けている竹山さんですが、何よりこの大口の土地に抱く強い愛着が伝わってきます。そう言えば、「大口の焼酎飲んだ時だけは絶対に頭が痛くならない。なんでかな」とも。

「普段は飲んでも一杯」という焼酎を飲み干し、「あと寝る直前に豚舎を一回りして、分娩豚房の子豚給水器に全て水を張ってから寝るのが毎日の日課」という余りにさりげない言葉を耳にした時、養豚に携わる竹山さんの心意気の神髄を見たような気がしました。鹿児島県大口市の「ＳＰＦのひと」は、川のように日々変わらぬ穏やかさの中に、滝のような熱意の激しさを秘めた人でした。（日本ハイポー株式会社・飯島　悟）

編集後記

阪神タイガースが優勝すると景気が回復するという。新小泉内閣がこのジンクスを正夢とできるのか興味深いところである。
養豚業界の一人として、牛肉地帯の関西において“タイガース効果”でもけっこうなので、豚肉の消費が伸びてくれることを期待したいものである。
牛肉のトレーサビリティに続いて、豚肉もその検討が始まろうとしている。なぜ安全なのか、なぜ美味なのか。事件が起きたことによる一過性の傾向としてではなく、消費者としても生産者としてもしっかりと取り組みたいものだ。
松山での「国産ＳＰＦポークセミナー」大いなる盛り上がりを！（寿）

日本SPF豚協会だより
第13号　2003年10月1日発行（季刊）
発　行　日本ＳＰＦ豚協会
〒101-0047　東京都千代田区内神田1-2-6
TEL.03-5283-5021　FAX.03-5283-5022
e-mail：j.spf.a@nifty.com
発行人　赤池　洋二
編集人　林　　哲